

# 一般を対象とした鑑賞教育活動

## 解説シート／音声ガイド

2005年度は展覧会に合わせて解説シートや音声ガイド等を制作した。企画展「マシュー・バーニー：拘束のドローイング」ではその両方を制作し、夏休み時期に合わせて子どもたちの興味を引き、理解しやすい構成を目指した。この際の音声ガイドでは金沢弁と標準語の2種を用意した。

2006年度は、音声ガイドについては「コレクション展I」「コレクション展II」で制作した。コレクション作品に関する解説文や音声ガイドデータは将来にわたって活用出来るため、今後も展示に合わせて順次データを制作し、保存していきたい。貸し出しは「コレクション展I」にて8月中旬より始めて、レンタル料金は1回100円でレンタルしており、2月末までの利用台数は合計8,845台である。その他鑑賞教育ツールとして、対象を中学生に特化した解説シートを制作し、団体対応に活用した。この中学生向けの解説シート制作は、音声ガイドの文面にも活かされた。

2006年度に目指したこととして、どちらのツールも一方的な解説に終わる物でなく、問いかけによって鑑賞者が色々な角度で作品を眺める動きを生んだり、連想や想像を深めたりするものであるよう心掛けたが、この点は今後の制作でも重要課題にしたい。

(木村 健)

## 講演会／トークなど

当館では、開館時より、展覧会ごとに専門家による講演会、アーティストトークなどの特別プログラムを実施している。また、担当キュレーターによるギャラリートークが定例化し、1ヶ月に1回程度行われている。こうしたプログラムに加えて、2006年度はキュレーターとエドゥケーターの協同による双方向性の一般鑑賞プログラムも試みた。

「artificial heart: 川崎和男展」においては、土日祝日を中心に、ボランティアによる鑑賞ナビゲーターが来館者と語り合いながら作家のデザイン世界に触れるプログラムを実施し、来館者、ボランティアの両者にとって実りのあるものとなった。

「リアル・ユートピア～無限の物語」展においては、ミュージアム・クルーズで培ったグループ鑑賞のノウハウを生かして、65歳以上対象の作品鑑賞会を行った。参加者数は少なかったが、口コミでの参加が多く、継続することにより今後の高齢者の来館を促進できる可能性を感じた。また、65歳未満の方々からの参加希望もあり、年齢を限定しない一般鑑賞プログラムとして継続することも検討したい。

「ママババ向けまるびいガイド」については子ども対象プログラムの項で触れているため詳細は省くが、今後も多様な一般鑑賞者に対応できるきめ細かいプログラム開発が必要であろう。

(平林 恵)



「マシュー・バーニー展」解説シート



「artificial heart: 川崎和男展」ギャラリートーク



「リアル・ユートピア～無限の物語」展シニア・プロジェクト  
「ミュージアムで団欒～Listen to My Story」